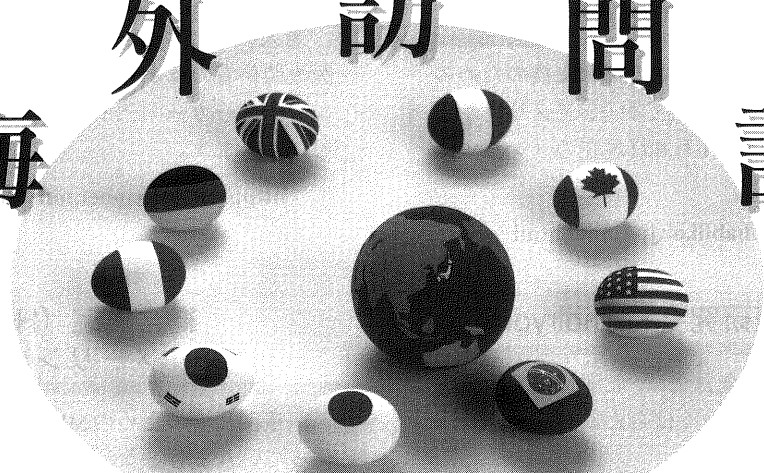


トピックス

海外訪問記



国立浜松医科大学附属病院 佐藤 友紀

2000年1月10日から1月15日まで、Paris S.V が主催するマニュアルセラピー認定試験を米国 (University of S. Augustine) で受講し、合格したので報告する。

1. 試験までに必要な単位

- S1: Introduction to Spinal Evaluation & Manipulation
- S2: Advanced Evaluation & Manipulation of Pelvic, Lumbar & Thoracic Spine
- S3: Advanced Evaluation & Manipulation of Cranio Fascial, Cervical & Upper Thoracic Spine
- S4: Functional Analysis & Management of Lumbo-Pelvic-Hip Complex

MF1: Myofascial Manipulation

E1: Extremity Evaluation and Manipulation

最後のコースを受講してから、少なくとも1ヶ月経過していることが勧められている。これは臨床経験を積み、技術を自分のものとするためである。

2. 試験科目、日程

- ・基礎科学—筆記試験
- ・脊椎基礎—筆記、口頭、実技試験
- ・頸椎—筆記、口頭、実技試験
- ・骨盤帯—筆記、口頭、実技試験
- ・四肢—筆記、口頭、実技試験
- ・筋、筋膜—筆記、口頭、実技試験

6日間実施されるが、最初の4日間は復習で質問を受けつけてくれる。後の2日間に試験が実施される。筆記試験は200問を3時間で解かなければならない。実技・口頭試験はそれぞれ20分程度の時間である。各分野のインストラクターと1対1になり、1つの試験において3から4の質問がある。暗記だけを要求するものでなく、臨床に基づいたものもあるので、日常における臨床経験がとても重要である。

3. 結果

通常、試験3～4週間後に郵送されてくる。試験結果はそれぞれの項目で判断されるため、合格する項目もあれば、不合格の項目もある。認定を受けるためには、一定の基準を満たさなければならない。

4. 感想

試験に合格するためにはマニュアルセラピーの知識・技術だけでなく、それらをいかに臨床で試しているかが重要であると感じた。

2001年にParis S.Vを講師の1人として招待し、日本での講習を開催することが決定している。詳細な日程については筆者とParis S.Vが交渉中である。

